

カンボジア商業銀行の市場競争度：2007-2017 年期の Boone 指標の計測

奥田英信（一橋大学大学）

葉 佳麗（一橋大学大学院生）

竹田圭佑（一橋大学大学院生）

カンボジアの銀行業は、好調な経済情勢を背景として、過去 20 年間、急速な成長を見せている。好調な経済情勢と参入規制が緩やかなことから、商業銀行の数は 2008 年の 24 行から 2017 年には 39 行へと増加し、銀行部門の総資産を対 GDP 比率で測ると、2008 年には 49%であったが、2017 年には 142.02%に達している。

しかしその一方では、カンボジアの銀行部門について、非効率な小規模銀行が乱立して銀行数が過剰であるというオーバーバンクの問題や、銀行数が多すぎて金融当局が銀行経営の健全性を十分に監督できていないという指摘もされている。実際、市場シェアの変化だけを見ればカンボジア銀行業の集中度は漸減傾向にあるものの、近年の新規参入銀行の大半はプノンペン周辺で営業している小規模外資系銀行で、実質的に市場は 2 分されているという意見もある。これらの諸点に鑑み、IMF は、経営統合などによる銀行数の集約と経営規模の拡大が必要であるとの政策提言がされている（Unterobderster, Olaf ed. (2014) Cambodia: Entering A New Phase of Growth, IMF）。

カンボジア銀行部門についてのミクロ経済学的な実証研究はこれまで殆ど無く、銀行部門の競争度の実態は全く不明なままと言ってよい。本論文の目的は、Boone 指標を使って 2007 年から 2017 年までの期間のカンボジア商業銀行の市場競争度を計測し、その決定要因について検討することである。本論文の計測結果によれば、（1）カンボジア銀行業の競争度は近年むしろ低下傾向にあるように見えるものの、（2）大規模銀行と小規模外資系銀行との間で市場が 2 分されているという指摘を考慮すると、競争度の低下は見られなかった。また、（3）マイクロ金融機関との競合性や、マクロ経済情勢と政治的要因による起因する市場ストレスの悪化も、銀行間の競争度を高める結果となっていると考えられること、が示唆された。

本稿の構成は次の通りである。第 2 節では、カンボジア銀行セクターの特徴について説明し、第 3 節では本稿で使用する Boone 指標を紹介する。第 4 節では Boone 指標値の計測結果を説明し、その背景となる決定要因について言及する。第 5 章では本稿の要約と今後の課題について述べる。

¹ Okuda, H., Aiba, D. (2015) Determinants of Operational Efficiency and Total Factor Productivity Change of Major Cambodian Financial Institutions. *Emerging Market Finance and Trade*, on line published in December 2015. は先駆的研究である。